

2021年3月期 第1四半期決算説明会 音声・質疑応答

2020年7月31日
アイシン精機株式会社

音声データ リンク先：

https://www.aisin.co.jp/investors/voice/fy2021_q1_financial_results.mp3

Q1. 緊急対策・構造改革の1Q240億、通期900億の会社別の内訳や活動は？

A1. コロナを受けて全社対象に一から経費を見直した結果が900億。内訳は当初の23年度目標450対し、新アイシンを見据えた統廃合等の前倒しにより150億。これは先に機能統合した調達機能や他の機能の統合前倒しの取り組みや、倉庫・賃料など外注委託の内製化などである。次にコロナを機とした技術開発・生産技術領域での新たな取り組みとして150億。これは技術開発部門ではCASE領域を強化しながら既存領域でデジタル活用での試作コスト削減等の効率化や、業務のスクラップアンドビルド・働きがい改革を加速させる。生産技術部門でも従来出張で行ってきた生産準備がリモートでやれることがわかってきた。コロナを機として働きがい改革を進めている。残りの600億は残業や出張の抑制で一旦は緊急避難的な策だが、働きがい改革やリモートの活用に目途が立ってきたので平時に戻るときに全て戻すのではなく半分は恒久化をめざす。21年の統合以降はこれに当初計画していた統合効果の残り300億が加わり、23年目線の新たな目標としても構造改革900億とした。1Q240億のサブ別は、AI124、AW75、ADS11、その他30である。

Q2. 1Qと通期のAT台数を比べると2Q以降に前期比で増加となる。機種別の内訳は？

A2. 年間見通しの840万台はコロナの影響が不透明な中で、客先から最大限可能な範囲で入手した情報に基づいて社内で議論した前提。仕向け別で前年比で日本が±0%、北米が▲10%、中国+15%、欧州▲15%、豪亜を含むその他▲20%とみている。機種別は1Qですでに6速の中国が戻っているところに2Q以降欧米が戻るため8速が回復し、通期では機種構成は前年から大きくは変わらない。

Q3. 固定費その他が1Qは+95億に対し、通期で▲246億なのはなぜか。

A3. 1Qの+95は研究開発費+29、(前期)品質関連費用+53、棚卸等+13である。通期の▲246は、現時点で具体的な案件があるわけではないが品質関連費用と、AW統合のシステム等の費用が主なものである。

Q4. 設備投資について前年比▲800億の2100億である。考えを教えてください。

A4. 社内では2100億よりさらに減らせないかという検討もしている。1000億程度がAT投資だが電動化への切り替えは必要な投資として入れている。ADSの制御ブレーキ関係もそう。一方それ以外の投資は先送りするものや、実施するものは効率化をしながら全体として投資を下げている。お客さんの電動化への切り替えにしっかり応えていく。

Q5. 緊急対策・構造改革900億のうち構造改革として継続的な効果となるのは600億円という認識でいいか？

A5. 20年度は構造改革が300億、緊急対策が600億の内訳。継続的に900億下げる必要がある認識で、今期の構造改革300億に、当初予定していた構造改革の残り300億と緊急対策の恒久化で300億の合計900億を目標としている。トップラインが伸びない前提で固定費をしっかり管理していく

Q6. 通期の中国台数で+15%と説明いただいたが、マーケットをどう読んでいるか。

A6. 今回得意先とのやりとりの中で前提を置かせていただいた。四半期当たり60万台程度で推移するとみている

Q7. 下期以降のATの回復について、機種別にはどう見ているか。8速の収益性と合わせて教えてください。

A7. 中国は四半期で60万台程度で推移するとみている。全体では下期以降に欧米が戻るため8速が戻ってくるとみている。8速の収益性は1Qでは数が出なかった分効果が出にくかった。原価低減活動は継続的に取り組んでいる。

Q8. 通期の地域別の状況は。特に北米と豪亜

A8. 会社が置いた前提として、北米はある程度稼働が戻ってきたが前年比▲10%ほど。体質面では従来からのロス改善の効果が出だしている。豪亜は市場の戻りが遅く前年比▲30%を見込んでいる。得意先の販売計画やマーケット動向によって今後変わってくる。

Q9. 四半期ごとの利益水準は？

A9. 2Qはなんとか黒字の水準。3Q、4Qでどれだけ積めるかだが、構造改革の前倒しにしっかり取り組んでいく。

Q10. BlueE Nexusのニュースリリースに対して、アイシンへの影響は

A10. トヨタから20数名の技術者を迎える。BNの電動化の販売力が高まるという理解。設立時からのモーター、インバータ、ギアに加え、エンジン、バッテリー、トヨタの持っている適合力を生かしていく。アイシンとしても電動OP、電動WP、制御Bなど電動化商品をセットで提案できる点でメリットがある。

以上